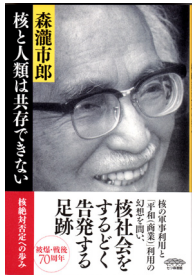


座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

第142号 2016.1.1.
 毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



「抜けた乳歯を調べてください！」

松井英介

「抜けた乳歯を送るので調べてください！」

こう言ったのは、インドの映画監督シュリプラカッシュさんでした。前号で紹介した若いフォトジャーナリストアシッシさんと一緒に広島にやって来たインドの先住民です。世界核被害者フォーラム二日目11月22日（日）夜には彼のドキュメンタリー映像「インド・アメリカのウラン鉱山被害」がフォーラム会場で初公開されました。

彼とアシッシさんに「乳歯保存ネットワーク」を紹介したとき、すかさずこの言葉が出てきたので、私は一瞬たじたとしました。そのような反応は初めてだったからです。彼にしてみれば、ごく自然な言葉だったに違いありません。しかしその瞬間、私は日本人として、自らの社会的責任の重さを感じたのです。

ときはまさに、12月10日安倍首相が東芝・ウェスティングハウスのいわくつき原発を7基インドに売り込みに行く直前で、インドと日本国内で抗議行動が巻き起こっていました。すぐ横でアシッシさんが、優しく笑っていました。「乳歯保存ネットワーク」に対する彼らの率直な反応は、私にとってとても嬉しいことでした。

このフォーラムの事務局長を務めた森瀧春子さんが、彼らを広島へ迎えるために苦労したと前号で書きましたが、世界各地の先住民がマンハッタン計画最初の被害者であることに注目したのは、春子さんの父・森瀧市郎さんでした。市郎さんは広島原爆で右目を失った被爆者ですが、当初「核の平和利用」を信じた自らの不明を恥じ、核実験に抗議して原爆慰霊碑前で座り込むなど「非暴力直接行動」をつづけながら、世界各地の核被害者のために献身した哲学者でした。

1994年市郎さんの死亡直後に出版されその後絶版になっていた「核絶対否定への歩み」が先日装い新たに出版されました。「核と人類は共存できない—核絶対否定への歩み」（2015）セツ森書館です（写真）。優しい文章には怒りが溢れています。例えば、「日本の政府はいったい原爆小頭児のためになにをつづなつたというのか。親の苦悩になにをむくいたというのか（P. 152）」。巻末、「原発事故によって終わりなき核汚染にさらされる福島の実状は、『核の平和利用』の完全な破産を露呈している（P. 229）」と書く春子さんの「解説に替えて」からも目が離せません。

2016年、しっかり視て聴いて大いに議論し、協働行動を拓げる年にいたしましょう。